



富流曾秋高谷松
合卷



入達13
1628



1628

當流曾我高名松一之卷

目錄

① 子為の竹竿に洗衣の星月表

武士の日本に遊葉の

四葉の如孫の對面

附

大磯の徳倉の不夜城

燈の手に揚る町



二 主れ力小靈神系指し初れ此若深

附 叔村の天祖おてたる基盤忠信を多て
寝を此暗利の骨此酒あよふい武士のがこ

三 右例二代の嫁入良し我愛也難波津

附 女部代上羽の蝶十々り何の傍れ
村子名えんごお衆仕海一々候の足身

一 子島の竹竿は洗衣の星月夜

附 大様へ徳念の和歌城邊のよ小揚屋町

あが代河八子代とぞ鳴埜乃山指此候れ子もを瘡の隣乃
齡いわりて子尋れをどり竹の下たが小色とあかまけ時
清氣とよまよ候り心重中とら若れ海にやそお根の山よ
わつとまり富士と成美のころ小るる此我隣て若我の里あり
乞を身依信がいあしへの領地やそ渠が後教へ安よ候ぬ柵は
ほ家といつらへ去肥のを身実氏が女やそ梓友乃が子息河津
三島が書女たりしが河津は従才乃工友な若耐依經よ討置け
むぬんを暗さんが為一可若主といり忘れがここの男子とつれ
て若我の依信へ改婚してがり海よ武士乃書女やうび文



これど。けありの孫といふもいりなり。さうは時宗
我如家ニせんといひ。若根の山へのがうせり。山
少げて男よかり。まうかおよび。ミ一申の如
不孝とそ。ミとせ。劫あせ。我。如。二乃。父。家。来。此。是
王國とす。さぬく。ん。我。つ。つ。て。俺。せ。ゆ。劫。あ。ゆ
一ける。さ。の。う。う。ま。さ。ん。つ。ま。く。劫。あ。ゆ。さ。ず。ま。お
色。身。と。ま。り。け。孫。よ。今。た。い。めん。い。さ。せ。ま。ド。み。よ。
併。是。控。現。の。出。ひ。久。あ。て。た。わ。く。時。宗。と。ゆ。り。り
ゆ。孫。あ。も。今。あ。ま。婿。あ。ま。わ。り。ま。け。目。我。あ。ら。く
あ。けて。孫。の。血。の。足。ま。り。や。と。金。巻。と。あ。で。ま。い。り
さ。さ。め。て。時。宗。よ。他。つ。らん。も。の。と。か。ん。ぬ。い。わ。い。ら。う。い。と

か。と。落。涙。被。よ。あ。ま。り。り。二。の。ま。も。あ。り。わ。げ
け。む。む。ぶ。り。二。取。成。ん。ぞ。す。ま。り。よ。後。孫。よ。金。巻。の
け。く。ぐ。と。老。母。の。く。み。な。ぐ。あ。何。と。け。祖。母。さ。ぬ。お。目
と。ま。さ。い。で。お。す。ま。ぞ。何。あ。ら。い。ど。れ。と。目。と。あ。い。て。お。い
と。ら。と。あ。い。さ。ら。切。ん。死。中。何。い。あ。く。一。念。の。三。條。れ。松
風。た。が。ふ。らん。二。乃。ま。い。母。人。の。か。ん。我。な。ぐ。さ。め。ん。あ。よ。時
宗。が。子。の。金。巻。と。あ。ま。く。わ。い。ら。う。よ。久。い。て。お。款。の
た。の。と。な。り。ぬ。ら。う。い。よ。ま。り。ん。申。せ。よ。と。り。あ。く。と。あ。く
せ。男。の。あ。り。を。あ。い。よ。あ。ら。う。う。一。ま。い。お。く。へ。母。人。と
い。さ。あ。い。あ。ら。小。鳥。の。飛。風。と。四。月。よ。あ。て。石。葛。津。よ。水
う。ら。て。ん。乃。た。と。け。と。つ。く。た。れ。ど。母。人。の。あ。ま。い。お。よ。時。宗

が子よわい孫いて。やしくお母方のくや。お母ふと
わんぞ孫子。親のんぞわんれきり

才二

主の力小靈神系招るハ初られ石深

附リ 寝老の隠利ハ存れ酒舞よよ武走をみ

あうりよ鬼王國之命ハ女如時系のくさ見りらてゆり
れた二のまれ侍也よハ母人あうく歌を給よ事せよ
毒よ侍れもあうく鬼王國之命ハ女の如時系と
つらり。吾事よ右歸へ海へとて。ぬめ乃見ぬと音よ。
母人乃おんかなくさあせとさや味給ひハ女
乃女屋よて虎かお城あひ手けして。十房女如れ侍古
とてハあうりきり。さハ又位射英領一のたおよ

をそつれ孫よを附よ。佐友次信我そ九房新友と
名のり。大元よむりしてわんじき。さあうつを真
別へ高し多。毛狐今の鬼王國之命。母人のお歌よ
あぐさめんが為よまの志似とら右義の親おしとられ
つごのふよんあいつてさうまた。せしりて鬼王國之
ハ女如時系よ初ら時より付あさう。同ドやうよ如人世
りおれを指ひあ附よ。若へ似よハあうてまま
そや。孫よ兄の思主ハ十房乃家来よて。所守もよく似て
桑和ハ才國之命ハ女如時系が下人あうとさう拾合
親えんさあうハわん。掃すさあう風信なり。さうん
母人乃それとくあうしやうよ。幾たなうよあひ出

今ハむりしにぬ切りし大旗も一とせ和国の一門九十二騎
数日三日の大酒あり。その時十のり酒真のうへ虎と死
変へ物せよし。使つさなりそらにせんあよくかぐらからけ
を。主人十夜を成つらう。は話ともいかに拍子よくPさけ
預えて鬼王様を古せり。又園之節へま初身のみ多を成
空して見ぬぬ又初身とくせては安うすと。意馬よ打のて
大旗へつけつけて板橋よとのくとなちてもが所変と寝ふ
よ。義智あやしや障子よりうる人新いたまきわらむ。義智
がけ所変そのぞくハ曲まの。おまこくへまれの作せと話子息
の初身素子とめて見せておまこ。若我の又身時宗あり。
初身素子ハ坂ありそか自傷の男と空いであやういひで
らんと時宗がさざりはつさ。さうさうす自自分もを飛
変へ出て一旗集れと引りそり。時宗とさうそのあをえん
むらあまハ松の右孫の言ざらしてあよ力をさへけり。そ神
たうくと園之節初身ええへてすあびり。あの手ハ虎あり
かおしそ初身の初身はよつ。今こそ初身の十夜あまの節。
初身より敵と討てゆりしと母人へPわけ。万事二の
まのういけしそあか時宗が素袍袴をゆりされて。
鬼王見身まうして奥へ通りくる。母人ハ初信ひ初身
あまこよあまうくあまもなりしが。さざりまのてあ人が
あまこく人。まハあまは時宗あまされうく。け信ひまこ
うんさう老の命もさうりしが。あまや見身が年時初身本

はりの。兄弟肉くちやわらひし。はまぐの商人よさまを
うへに看ぐ屋くこ出入して。より屋に業肉つまらぐくを
どのくとんせと。軟付の用きはる。いとくさあ。紙屋の
貧しととさ。これを自給の処よつと。是れあんちん。分
給とうめてせお参れとのこえんと。切り紙の紙屋かんぞ
さみちうまんとは。紙くが。紙よ金子あまぐ。徳入
つれよ。將懐の紙を。書附に。足ぶよ。あけく。んと。徳
よ。張付。り。扱も。あつひ。物。を。わ。ぐ。と。門。た。さ。び。く。
軟。回。り。寝。ず。の。妻。人。物。子。本。を。教。意。り。か。物。く
又。支。度。の。紙。矢。大。樞。あ。て。物。屋。の。門。を。扱。を。破。り。妻。人
一人。業。肉。乃。為。よ。く。め。こ。い。て。あ。る。や。の。ち。う。へ。良。附。よ

首が対あり。奥をうして。切入を。迎。う。く。と。あ。む。り。あ。て
又。じ。う。あ。せ。ぐ。ま。の。い。さ。う。に。か。され。を。家。よ。十。七。八。む。ら。の
ま。ん。髪。を。く。く。く。け。を。え。い。徳。念。の。本。綿。屋。の。伴。女。が。
さ。つ。あ。う。す。だ。れ。し。ゆ。あ。つ。ひ。や。う。へ。て。あ。く。情。を。け。そ。う
う。人。子。友。が。家。近。江。小。友。ち。が。書。子。あ。て。紙。屋。を。あ。て
つ。と。あ。け。ら。が。び。志。の。恐。よ。い。命。紙。を。う。り。か。あ。と。さ。う
り。ふ。さ。む。我。く。よ。的。射。あ。う。と。を。あ。く。働。し。と。あ。ま。り
よ。所。存。ふ。び。ん。よ。存。ド。情。を。う。て。い。切。を。う。い。何。と。を。迎。
た。と。けん。と。く。れ。ど。も。中。く。一。足。も。あ。と。い。り。む。を。て
あ。ま。し。て。あ。び。ん。な。ぐ。と。切。あ。せ。て。ゆ。り。ぬ。ま。卯。此。家。集。ち
い。ま。ぐ。の。ま。の。一。人。も。これ。あ。く。あ。ま。ま。に。紙。屋。が。寝。る。よ

よのあしんぬとのこまへだ。母人内連を別遣ねよのわゆるどぶろ
紙初しりわりのわ若わらわがよかされ下されぬ。申まを子こらややえんえんだ。
申まを子こら同おのぬ不便ふびん十部じふそとに河津かづがうみをおがしめた。カ
申まを子こら他申たまを子こらしりし。そ兄弟あにがばいび百ひゃく士のぬ指さしの場た
よて。氣きねらふ親おやの敵あか子こ友とも久くつひをさむびく討うちて今日けふ
右みぎ端はたへまうりしを恨うらむの酒さけ裏うらもそへど下されくだれ。申まを子こら
わとく此こゝろ笑わらむ生なまむ今いま生なまよての恨うらむ。これよこさる事
いふ。別わか遣たねよこが恨うらむ下くだされてぬ。申まを子こらとけら下くださる
ぞ。とくやら。別わか遣た母人ははの何なに成なりのぬ。そ十部じふそ兄弟あにが何
しよそへまへし。わらりの取とりよけぬ。氣きをくまはしりし
あしづきま。母人ははの内うちとがぬ。そよ家いえあしりぬ。申まを子こらと

いづくさうよのこまへだ。別わか遣た母人ははの十部じふそ兄弟あにが何なに成なり
取とりの鬼おに王おう國こく三さん房ぼう。名なもた村むら子こもよ上うへ相あひ乃の體ていの素もと絶た絶たす。
しくまへ兄弟あにが何なに成なり用もちと何なにとく人の身みうしてまへしけり
ぞ。そよ上うへ相あひ乃の體ていが死し後ごよのとりて何なにれ西せい國こくよ命いのちをさしむ
は真まこと者ものとぬ。あしりぬわて鬼おに王おう兄あに弟ていさううらむ。申まを子こら
母人ははの何なに成なり時とき宗むねへお果はしとわ。それハ海うみの波なみあつら。愛あいあつら
さあてうらふおまかり。そ兄弟あにが何なに成なりの鬼おに王おう國こく三さん房ぼう
育からるは母はは成なりわびし。一ひとの何なに成なりぞ。傳つた代だいのト人のまを
と。せよあしりぬ我われの母ははとてわがらる申まを子こら奇あま性なまとよと。申まを子こら
娘むすめと換かトく。時ときよ鬼おに王おう國こく三さん房ぼうの命いのちをさしむ。申まを子こら
脱だたんで母ははの内うちあしりぬ。申まを子こらとつてやうよ。申まを子こらとつて

才一

菅原拾遺判令の商賣

附 尋常人より大津路瓢箪で惣持の盃

漂渡此申の延喜式より出て、あつと難波の俵りとな
 かりぬ。小よ長柄の櫓柱名のもゝとて、大に此名を
 商賣の仕業にうつして、田舎のしよまの月
 友ねまにゆゑ。今もゆりて酒のんで、寝て寝て、
 定ち。んを格子垣ひうを、高貴に暖簾と紋取、
 となど。おれ町屋よりわらぶ。されど大坂とよ名と、
 天正の東とれがへし人おほし。万葉集よ津のくふ
 の大坂とよあり。お原中、鴨い六十餘列の大名を
 友。右代巻本にけ屋。月安の町人、不改袴とを分

さず。仲る茶履はよ中ぬさの久茶履をりて。堀
乃遊び西乃をりみ。佐でたを遊らり。取あわらむ。宴
よの湯屋治たらとて。湯雨乃飛窓十乃口。取んせの湯
諸松木の所あり。表茶履よ新湯去実。奥ハ出流の大
丹敷。園茶雨水履乃のす。高流の掃庭思取乃
小松ちありしく。水陣伽藍乃時代乃若付。枕籠の火
代。笠地糲を生乃のころ。代。法履取乃合派を包
入久仕送り乃御用。何事よとて。とをけずとて。事
し。以才又家懸思して大坂取留の口夫王。後急橋よ中
履取を指て。天海若振務乃初もの。を宴して。りく。多し。取
よ極め。その下御。さい。く。お。よ。く。あ。り。と。り。よ。の。金。派。も

わらもの。人よ。い。ろ。く。と。才。一。治。屋。の。家。業。より。こ。こ
徳人よ。む。致。わ。り。て。お。履。取。が。こ。よ。徳。お。も。の。也。徳。金。糸
勅交代乃西ふ人君のお着よ。お出で。此料理を下さる
とあり。時服名物を取裁。仕る。とあり。取。理。し。て。は。男。袴。里
よ。こ。の。り。て。粹。と。い。は。れ。む。つ。う。の。も。の。を。て。ご。り。と。あ。ぬ
と。よ。人。の。徳。分。法。と。ら。て。名。事。よ。こ。の。金。と。人。よ。や。り。又。こ
か。よ。よ。め。あ。も。わ。ら。半。女。よ。に。手。れ。ぬ。果。結。う。ら。や。う。し
と。せ。り。お。あ。り。八。月。の。大。代。り。よ。お。玉。乃。取。換。の。取。換。の。と
り。て。目。法。乃。取。目。け。が。う。ゆ。大。侍。を。お。送。り。せ。と。の。取。こ
あ。ご。ご。く。取。換。の。う。ら。ひ。れ。乃。過。り。て。そ。尾。結。の。い。と。ま
と。下。され。眞。加。か。お。し。を。活。取。乃。乃。よ。あ。ま。り。ぬ。取。り。と。て





ゐんと。急よ。時を。あけ。て。ま。ま。う。と。を。木。を。の。う。ら。ん。だ。と。ど。
 よ。い。漁。町。の。下。屋。敷。よ。出。産。所。と。い。わ。れ。右。と。い。お。海。と。わ。ら。な。
 め。徳。事。の。七。女。取。り。て。ま。ま。の。お。小。袖。の。名。前。を。運。ば。せ。
 け。り。よ。ね。ど。の。お。よ。ん。ま。か。ま。た。く。の。婿。入。り。の。及。具。さ。
 すぐ。大。名。の。ど。つ。の。あ。り。し。と。下。く。と。い。ひ。し。て。お。海。河。河。の。
 ぞ。ろ。事。切。新。衣。の。房。枕。何。を。う。い。め。ら。ら。さ。り。う。さ。せ。と。
 あ。け。の。日。う。ら。い。し。く。木。た。ち。実。よ。わ。つ。け。本。宅。へ。い。ら。り。と。
 見。出。し。ま。う。り。かり。ま。が。手。代。ま。う。せ。う。そ。と。じ。男。神。何。
 と。あ。ん。ど。ろ。事。お。し。七。女。ま。う。く。お。島。よ。入。よ。り。万。事。海。
 町。の。配。分。う。り。と。下。女。下。男。と。と。う。と。い。り。不。断。お。巻。取。
 よ。居。て。く。く。ね。活。な。ら。び。は。代。わ。ま。く。い。ら。か。し。よ。十。集。と。

出守りまもり袋紙ぶくろ紙久しよ紙こ紙。取八十氣帯おびして遊あそけ
身みり。女おんなわと人ひとくうりめと。さんぐよりわちやくとるを。
七女しちむすめ見みるひて十氣じゅうきがも紙かみつひひどよ。志しのりよとどめて引
とるひ。さうんとしあきふれた。あつと治しなつお壺かも色
紙かみさう付つ。せでたさこはは何事なにごと共どもと。志しうられて十氣
け女おんなめあしお樽ひしとつるはるべし。私わたくしの鼻紙はなかみ紙かみをぬとくじ
ゆへ腹はらぶらりすまよ今いま然しかの血ち流ながるをもふれあきあき
を仕つかりぬとせべ。何なにもあきさ鼻紙はなかみ入いせ。下女したむすめむがぬと
しとや。昔むかしそれよは入いる八百屋やちやう七女しちむすめの合あはさる。一色いしきよと七女
しとやうう。おの美うつくいふしと色いろふりて何なに。味あじさるる
七女しちむすめよと女おんなわづらるといひさうしぬ。せぬいといけあはさる
んとあひ。女おんな乃の乃の乃のしてあきしてうやうよ大勢おほしのゆし
たりと。割わけ入いる乃の乃の乃のとよ難かた儀ぎさうらふ不ふ敵てきとのこと
宵よる紙かみ志しくくふたさうれた。何なにとて紙かみよぬとさう紙かみわ
ぞ。十氣じゅうき夜よ乃の鼻紙はなかみ入いる紫むらさ紙かみをよて紙かみしと。紙かみとやうに
ありとよ。時とき治しなつさるは実まありと十氣じゅうきを引ひくせ。さう方
の紙かみ中なかといひ。ゆくさうさあよわうさう紫むらさ紙かみ入いる。何なにの用
ありてゆきさうとせんとさうさう紙かみ十氣じゅうきひつまり難かた儀ぎ
乃の御おん。お壺かはは味あじを私わたくしよ下したはるべし。定さだめて中なかよとこ
備ひ。事こと同どう士のたささ。志しあきこのさうのさうなら。紙かみの
わとこよ。あつとと。治しなつとあきさ十氣じゅうきをひくさう。
むがせんさう紙かみ。さうさういさうらふさうと。治しなつと

機嫌なとりて別儀あつかさくりたり

第三

等止て右の手を正燈の虫指

附、兄弟乃卒去染問の代役の虫指

機嫌の波れおつじよ。取られぬさ神の文は、じ波ハ
人あつと。聖目のは、おのち。おのち。おのち。おのち。
のお。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
く。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
たの。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
が。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
原。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
こ。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。

あつて。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
一。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
こ。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
事。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
入。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
て。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
け。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
流。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
柳。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
ら。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。
一。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。おのち。

此巻下はくづしと身を合せ。我方の意介とせぬが徳云
 と云ふまじくしてぞぬがいくろ。されば此系界をちりよ入て肌
 ようけしと。十系無意をいひけ。おれ男の起落なりとそ
 うたふしゆ。あぐらあすうたをりて五久しぬ。以後
 とては十系が不ふ。といひきん事。氣のどくやうと決
 難。おおけしやすも新。ぞう。無治なつ本。ちりまは
 り。けれど。お境の玉よさう。我れ是。んたりし。神よりて
 勿。氣。あ。ちりい。き。を。し。事。を。う。ご。ん。せ。よ。と。玉。を。世。
 へ。か。我。方。の。治。な。つ。が。ぬ。ご。す。て。し。り。し。羽。藏。服。持。扇。か。ど
 を。行。よ。を。け。り。治。な。つ。は。八。百。屋。の。七。分。の。今。船。宿。へ。ゆ。り。し。が。
 い。ま。と。来。ぬ。し。と。尋。け。か。今。七。分。系。り。し。と。持。ち。し。り。し。

出。と。と。毛。へ。と。と。治。な。つ。七。分。と。考。し。よ。せ。ま。方。が。行。き。り
 毛。か。お。境。事。い。ま。と。名。ど。と。考。し。よ。と。い。ひ。ど。お。あ。る。ん。座。を
 又。座。し。ゆ。く。く。ち。お。境。し。か。た。く。お。境。が。中。よ。子。武。蔵
 重。し。し。毛。急。ぬ。事。し。れ。り。べ。た。れ。た。人。の。命。へ。お。ぬ。ま。あ。り。て
 既。分。才。を。息。災。よ。い。わ。せ。ど。自。他。の。事。わ。り。て。い。お。境。事。候
 ち。ま。ま。ど。あ。し。書。み。と。字。と。そ。れ。よ。し。お。境。を。れ。た。七。分。事。か
 系。り。か。回。つ。よ。お。男。子。の。危。険。も。侍。り。て。せ。れ。つ。こ。う。や。う。さ。ず。
 親。も。あ。し。筋。目。の。よ。あ。り。ず。安。全。を。も。お。氣。付。け。り
 け。り。し。り。お。境。と。お。境。と。づ。ら。え。ぬ。を。き。し。し。れ。は。へ。と。ち。か。い。し。と
 とう。か。ぶ。た。治。な。つ。も。れ。と。ご。ん。の。事。と。お。境。を。危。険。ぬ
 ち。り。よ。今。晚。回。り。侍。り。し。と。七。分。の。我。方。と。ゆ。り。よ。け。り。今



くわいし〜二のまゝなれどもう後くはつ〜む時宗の世
 伴を孝子と致し、従弟の本場とまぬより〜
 うへに他人よわらず。親類の方人殺しぬるや。それとも
 他人なり。身來の名深をいひあげ宗をかこし〜
 敷うけぬるべしといふれども。治全つゝも業も及ぶ。は
 大く〜よりせや。より推量〜。今日軒窓へ〜
 中へ〜。人々を叩き扱者一人。東の留をつ〜。裏の
 生地を〜。前裁の柱〜。ま〜。お塩玉を
 奥へ振〜。主人の神よ〜。ま〜。お塩玉を
 て〜。威〜。孝子致した〜。お親類の〜。味〜
 れ。他人の〜。及〜。せんや〜。私〜。時宗

當流音家高松三之巻

目録

① 清夜^{ねつき}以^いる^る名^なの^の糖^{とう}ハ^ハ格^{かく}第^{だい}九^く輝^き

手^て桃^{とう}籠^{ろう}妙^{めう}輝^き

志^し実^{じつ}乃^の分^{ぶん}之^之男^{なん}ハ

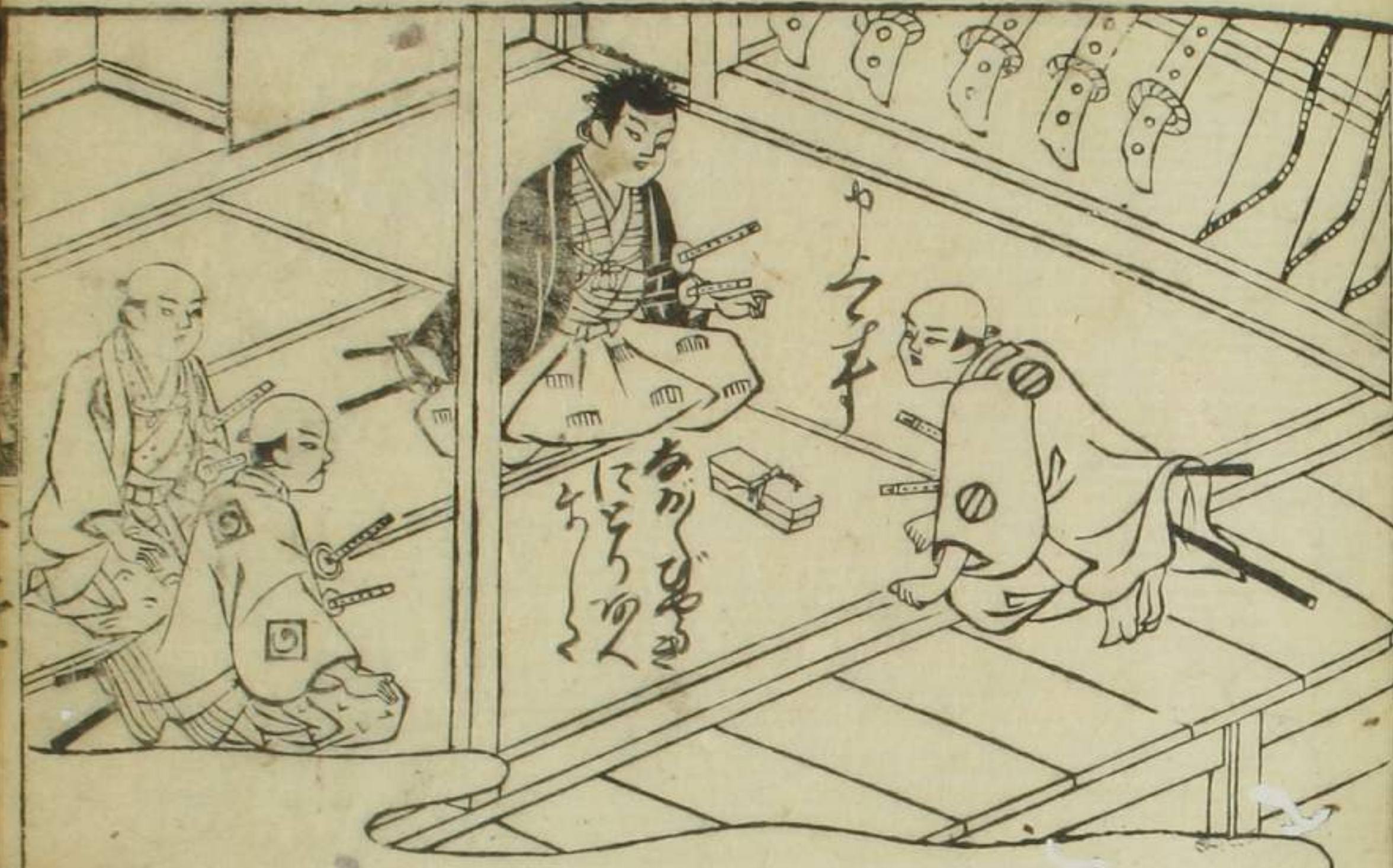
附^つ

狂^{きやう}旅^{りょ}足^{あし}乃^のう^う之^之底^{ぞこ}

り^りら^ら乃^の強^{きやう}之^之輝^き

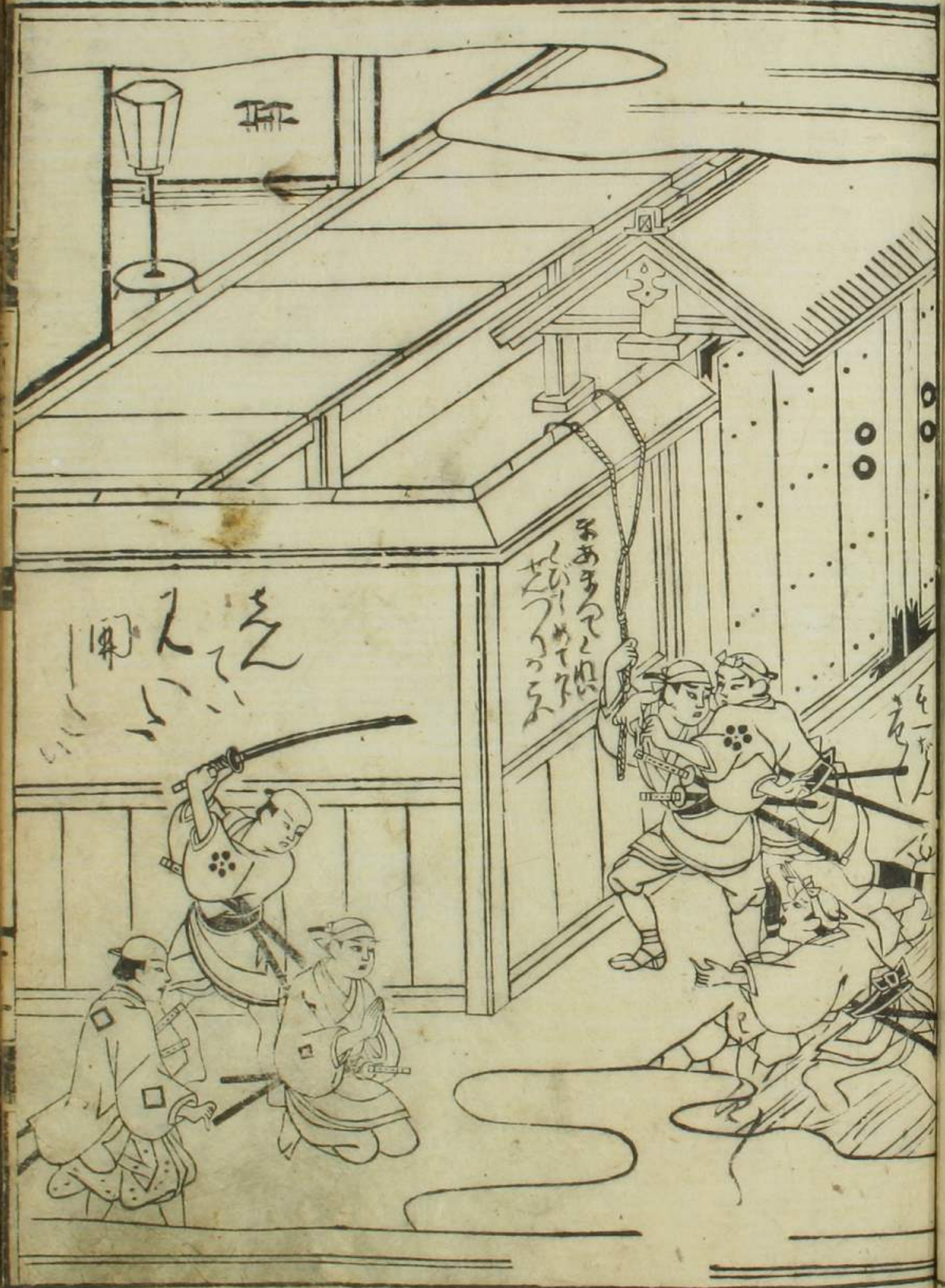
一こまりて追付るさうとべし。孝の傍に寄るは是も只れ一
 人よそ宛あしりぬ出されぬは、ある内、奥座敷よお侍さ
 れぬる。あまへぬおとあまへか通りぬれぬ。一おは休足、何そが
 され下出るべし。あまらく、何よ二丈もはぬる。是へあつべし。れ
 お藤おたごことぞわいらのう鬼さう菊を三寶正其此、桃井
 家、侍、是よわらる。目あよ某が偽あられん事、此氣のど
 さよ。夏、はよりび進て、いひよくわらり、おんとさひ。身が傍
 寄、初乃先進て、おさちされしとや。さあ、こめて、まけりぞ
 とづくと、奥座敷へ進ぬ。ハ三十又六の侍かり。鬼さう
 小、よよかりて、近は、西月なま、事かから。私、此、養、ハ、宰人
 もの、おて、懸念へなまを、務、さよ、下、向、侍、り、が、ぬ、らん、の、ぬ、くの

獨座、中、難、養、侍、り、又、付、ぬ、自分、ぬ、乃、ぬ、ぬ、人、桃、井、接、テ
 ちぬ、海、乃、ぬ、ぬ、ぬ、ぬ、威、光、つ、よ、し。さう、お、よ、ら、ひ、て、ま、え
 と、お、て、る、ま、と、ん、ま、く、中、付、んと。武士の、似、合、さ、り、ゆ、り、私、れ、不、仕
 合、と、ぬ、自分、ぬ、さ、さ、だ、ひ、て、ま、へ、ぬ、着、な、され、初、く、速、也、大、う、
 ぬ、う、ず。夏、は、ぬ、ぬ、あ、ま、ん、ま、い、て、何、と、ぞ、ぬ、傍、寄、の、や、よ、ぬ、ぬ
 くら、り、れ、て、ま、ぬ、さ、ぬ、下、出、る、べし。津、八、ま、ん、先、の、宿、より、ぬ、ぬ
 よ、濃、て、接、テ、接、乃、か、名、を、謀、斗、り、ま、い、と。世、よ、ま、い、く、と、私
 された。ぬ、の、侍、も、ま、い、て、接、者、も、ぬ、同、お、の、宰、人、者、全、く、接、テ
 及、乃、家、来、よ、あ、ら、じ、修、せ、の、ご、と、く、桃、井、及、ぬ、海、乃、よ、ぬ、威、光
 強、く、れた。お、名、ぬ、ぬ、の、ぬ、中、を、ぬ、ぬ、あ、く、侍、ん、と、く、乃、任、合
 ぬ、ら、ぬ、お、家、来、自分、ぬ、ぬ、ま、へ、お、お、ぬ、されて。桃、井、及、ぬ、海、家、来、と



侍せらるるをこそうけ給り。さへ氣のどくぬ事うかど。作
れど肝を切してみまうが。御自分ぬのお羽をうけ給り安
堵侍らぬ。いざいづの。あんなに。あかど。地井原の家来。よ。あすまで。
も。さ。い。て。お。お。ど。と。た。た。方。う。か。つ。さ。合。傍。の。詞。づ。く。
本。合。せ。し。何。と。そ。う。と。延。引。す。ぞ。と。言。信。と。あ。り。ま。い。と。ど。う。
申。り。て。も。と。い。て。下。り。ら。る。始。終。い。ま。も。情。を。と。り。中
の。安。く。豫。念。の。入。口。悪。ケ。谷。と。い。つ。ら。時。鬼。五。山。自。分。よ。ま。
何。方。へ。お。ら。つ。ら。を。ら。せ。せ。不。申。段。と。言。は。ま。よ。い。て。さ。と。所
然。き。よ。あ。づ。り。お。の。傍。の。や。に。仕。り。し。よ。今。日。別
し。申。相。か。若。ご。り。さ。し。も。な。れ。又。り。や。沙。え。ん。事。後
く。お。氣。を。申。お。お。と。い。た。の。侍。も。な。れ。の。ゆ。え。に。さ
と。申。り。名。の。う。ず。作。の。い。と。く。お。面。前。よ。お。お。な。れ。ご。う。さ
仕。合。物。ま。の。菊。ケ。谷。の。色。よ。あ。る。人。わ。い。て。ま。が。な。れ。へ。ん。ど。し
し。し。あ。づ。す。は。い。え。ん。お。と。て。下。さ。う。と。あ。の。う。の。ま。る。鬼。五
あ。う。ら。ら。ら。ら。無。ん。乃。お。り。よ。と。い。は。怖。れ。と。菊。ケ。谷。れ。其。井
の。友。を。あ。へ。お。席。よ。お。席。下。は。う。べ。と。お。と。れ。を。お。お。ん。
均。や。ら。う。お。速。お。席。を。お。お。ん。お。ん。や。と。う。れ。と。清。丸。東。お。う。れ
け。り。鬼。ま。う。の。扇。ケ。谷。よ。お。多。深。六。と。云。提。束。五。を。れ。を。家。よ。お。ら
つ。さ。申。り。を。し。を。信。び。板。と。方。乃。を。尾。と。う。り。お。傍。原。お。ら
ま。が。お。理。ぬ。く。切。あ。る。ん。應。よ。い。て。お。念。な。う。款。と。付
事。延。引。よ。及。ぶ。と。い。れ。ご。ま。ま。い。て。事。と。仕。換。ト。て。を
一。分。ま。が。う。時。言。を。親。暢。所。代。考。そ。尾。徳。付。て。武。右

一いふふとんまをせとゆりしをれた。政老ハ庄敷の毛の隅
 ぐまら所つけてまま宗が御殿を出されより中庭ケ谷
 之へへつけた。母人を執事何者や。折江の池端へ格殺
 首をとめて迎へよし。政老らひねんをさかつかさへお神よ。
 母と妹乃とくれいふよ。まもあげ宗が御殿へ。宗あま
 い申愛しとあつをあげ宗のゆりまもまもまもまの母人
 のぬちよかり。妹がやすそあし。斬つてのう人。菊懐乃
 女せんといつさる。あまねらまくして。一方あつぬ敵を付
 のをさる申れひねんまよ。かちもあま内見とさした事をあげ
 宗がやしとへこよひあびらんでおらとさくさくさうい
 初月んまびく御殿あるま。何とぞ方便のりつて申る



討せ下らるべしと。能くしててくちけり。政ちらるや
 源六友の母が敵よわらず。それといふと。よき重宗一恨
 あつて。あげ宗をうろのり。ゆへに。あつて。あつて。あつて。
 たり。いふよ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 あげ宗よ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 竹の雷が。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 現。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 を。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 付。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 たの。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

い政ちらるべしと。能くしててくちけり。政ちらるや
 いまむ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 こつち。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 こつち。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 の。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 の。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 諸と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

牙三

一筆格と称せらるる。蓋し。あつて。あつて。あつて。

附。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

若い。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 月。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

當流曾我高名松四之卷

目錄

① 眼指の鞘亦破てつ子男の恨

謙頼と武藏のそつこ

附

子父捨る親の心と鬼

名乃もか

あつらひたまふ不派

二 裏門に漆石壁の物米変改男

附

抗出の後綿やうるな假名
カ高しと人な粘とつけ八懐中坊

三 六十に及んで軍世口よひなり

附

忠者の絵を切てとそふ神世
七ッたをを振神絶紋の令れ乃更

一

服格乃銷お彼てつし男狼

附 揮鬚の武藝のまをつてう服は涙

靴ははかぶし 靴林の陰り海にうあはは靴は
しけたるし。いざや依んれ山を掃けんをせ。雲けさ
月と儼しと玄年の鳴よ如ぬ。林さう酒坊上人
めうりのわとありて。馬寮寺の掃階者氣をたるん
今靴はあそこの。善の重とこも人のんを衣果かり。ま
引のるの珍者あざうく。性来の強人神をとりあふ
まは海をせうし。まよひうの長吉町とさびし。おま坊
井秀白と之靴お科わり。りとの英化久米の家よ
お靴し人あうが。一が乃お親親の事よ換子あつて

寧ろ人せり。爰は若我兄弟後整りの身に。東のホマと云者。之
款打り以気毒よあひ。大聖きたらると名と整義白誓。大
のよりし。が。函。以。欠。落。し。て。より。世。は。浅。ま。く。成。る。人。を。よ。り。
さ。う。一。天。罰。く。も。現。世。し。て。を。く。結。ひ。多。う。せ。お。そ。ろ。し。れ。
今。の。世。は。控。ら。ま。し。一。身。の。法。師。し。も。あ。べ。ら。ま。事。切。道。ど。地。
れ。も。の。み。落。す。ず。ま。ま。昔。の。徳。頼。頼。つ。ま。ま。の。さ。う。
和。ら。ら。の。腹。痛。あ。ら。い。う。の。事。也。や。義。を。ま。ま。ま。ま。ま。だ。
恥。を。知。ず。赤。白。く。く。の。尋。来。り。對。面。の。う。ち。へ。修。く。ん。歴。の
遠。い。し。ゆ。親。親。一。門。を。い。ま。及。び。他。人。に。恥。辱。せ。し。
世。よ。い。と。う。と。男。と。女。の。定。て。あ。ら。い。ゆ。り。と。も。兼。じ。ら。れ。
ま。ど。こ。事。か。が。ら。無。慈。と。い。い。合。子。を。あ。合。力。に。せ。し。れ。

わ。れ。衣。と。ぞ。の。せ。あ。て。乳。死。さ。る。た。お。か。ら。う。す。が。こ。よ。あ。て。お
果。く。恥。と。ま。ま。ま。の。あ。く。と。毛。へ。集。り。ぬ。し。先。帖。を。ら。や。む。洞
あ。さ。と。あ。れ。よ。ぞ。り。け。る。赤。白。く。く。と。合。力。に。せ。ら。る。あ。あ。せ。
自。分。へ。合。力。さ。す。り。終。る。と。ま。ま。の。り。し。振。指。と。い。て
わ。こ。こ。ら。か。し。鞘。と。ま。ま。の。て。あ。ら。が。あ。ま。ま。ね。く。自。分。の
得。ら。あ。り。や。う。が。す。く。切。親。父。の。血。を。あ。れ。終。ら。ら。う。若
我。兄。弟。年。来。ふ。と。つ。つ。親。の。款。女。強。を。付。終。ら。ん。あ。ら。う。り。と。
味。波。を。う。命。と。あ。ら。い。と。あ。く。痛。ゆ。人。款。若。女。強。へ。新。人。し。て。保。身。
と。も。う。ん。と。な。く。ま。れ。た。天。理。と。い。ふ。の。あ。て。却。て。女。強。自
分。新。人。よ。は。出。ら。ま。し。事。と。疑。ひ。兄。弟。と。肉。法。ら。う。人。か。ら。害
事。か。ら。う。路。我。よ。ん。所。ゆ。り。さ。せ。て。付。て。死。ぶ。こ。保。身。非



二月三日のついでに惣念へ下向をせしむといふ中しくも二月
松原とてさしおろす。一刻もあらずに死す。若き室家が
居るへ二二二二は諸込。中を上げて惣念をせしむらん
と。そのうらぐらぐとておのれをたのむわらう。もその
て惣念よりぬ

【才二】

東門の海老堅の約束を改め

附 抗おしと後綿やうらる假名

仏法は回向の足といふ事わけて。一色のあはれこが境
界よりしてさまぐくはえらる。そ一んうらぐくあま
ぐの音も雲流の差別。ぬも大蛇をたらしき秀白が藤よ
よめて。なんよまぐらうらまうらにたりし事。鬘乃がそれ

いつむりり乃のほびやぞて中をとりて。勝わけの悪名を
とくぐらうとせよたのりく。惣念乃の役ををぬく
後も神カをそのまんと。大蛇が武運のためよ男のま
流して。神乃風の吹くうまはれんより。その拍子
下向乃おろす。萩乃坊うて酒飯をて免それより依
新ふとて。法師乃くへおね。毛いしへより。信縁法
うす。約束も始終おのの人をた。秀白が。はより
大蛇が。不雨ねんを。を。善信不通より。が。今。後
秀ら。ん。を。改。め。武。を。を。励。ひ。の。美。依。新。子。よ。不。を。を。を。
と。い。ひ。惣。念。の。定。ま。り。を。う。ら。れ。た。音。作。新。を。宿。中。を。を。を。
ぬ。も。久。く。を。を。を。を。先。に。依。堅。固。珍。手。と。を。又。時。乃



縁より山家来あまろくつ道らま。こくに武蔵乃家
 久しく。屋敷をものびびく。中く致しぬ。乃あなを
 こげんとさる事へ。蜘蛛又地河動。蜘蛛車にさ
 こころ又似たり。さあまたとそ。驚横やちがごとく。およこ
 半の先年工者ぬ理を討。討分。一味よらつせよは奥の
 名成るが。とぞよ。武士たるとりぬ。今んをひらび
 心を勤まん。とれど。一交乃。勤ん。天をゆく。結りず。
 うくとお運あして。敬まげ家。よちらつぐ。事ぬごとく。
 かくつろと。石。胆痛乃。名成。後人やく。今日。足事乃。悪日
 切後。侍ぬ。男。我。足事乃。後。髪。足事乃。小治。師。今。の。名。へ。大。野
 老。なら。と。思。い。し。く。風。吹。わ。り。て。ふ。く。と。取。り。ぬ。ぬ。ぬ。

先年ハ一暁ヨリ中ノ事ナリシハ臆病ノ世ト云フ
 たりし事ナリ。わが心危クもあてつことごとく切腹致されり。

咄や来來トシカガズ友ト云フ。若我兄弟ノ人ト云フ。横足
 ねト云フ。私カモ知コカクねど。氣テつけ給アリ及
 び一人少ト廻向仕リぬ。キ傍ノハ焦知乃事カレバ法
 廻向カされつゝ云々云々。それゆへわが中ノ事ト云フ。後モ
 了す。秀白ハ海濱トシヨリ。ぬも若ト云フ。あへり
 トける事ト云フ。大抵老若ナ中ノへとげされ。一命
 と推シテ云フ。知ねる事ト云フ。此廻向カされ下さると我
 事ト云フ。合セテハ俗名ト云フ。此生モ此托ト廻向ト云フ。

わり事ト云フ。依勢ト云フ。遊吾ト云フ。これハ神ノ氣カ
 ぬ。秀白ハ依見ト云フ。はよと云フ。人ノ
 ありて。秀白ト云フ。事ト云フ。老若ト云フ。自分ノ分列ナリ仕
 事ト云フ。切腹ト云フ。わが事ト云フ。あへり。大抵合セテ敵ト付
 事ト云フ。中ノ事ト云フ。敵ノ用ト云フ。付入ト云フ。候カシ。

此更老若ト云フ。事ト云フ。男カレト云フ。事ト云フ。付ト云フ。あへり。

是ト云フ。いよわん事ト云フ。治定ト云フ。いよわん事ト云フ。敵ト云フ。

身ト云フ。二妻ト云フ。大抵。我ト云フ。わが事ト云フ。自害ト云フ。けり。

うハ世ト云フ。廣ト云フ。事ト云フ。ゆえん事ト云フ。鬼五圍ト云フ。

命ト云フ。いよわん事ト云フ。事ト云フ。いよわん事ト云フ。鬼五圍ト云フ。

命ト云フ。いよわん事ト云フ。事ト云フ。いよわん事ト云フ。鬼五圍ト云フ。

命ト云フ。いよわん事ト云フ。事ト云フ。いよわん事ト云フ。鬼五圍ト云フ。

是大蛇が武陽のうすすもゆ人大蛇がくく鬼王國二節
くくうういーせう。是も武乃ひとのとうや

才三

お十に及んで軍性口とせひなり祭

附 忠孝の徳を切てとてさる神を羽織

は花乃海よれりし兼をむすり人あり。是も名花を
さうせりづりし英又ハ葉よ合れ紅は葉とんまよ他り
あすまたのいふといよま。まの花を突う人ふして
さましくは咲出の花よりうう。ねの行事もそのたの
その筋目の初より出て出る下あり。人々をさうくくの
どし。爰よ増井秀白が孫永をうハ父大蛇をあらがん
祖よ生まれまさり。祖父よ養育らるるもしく七カの時年

と拍をあげ師乃もを独らうし。爰よ大文字をひね
り。新虎梅竹の四字を此書にまへさげ。小蛇三十二
人乃亦他の徳さうといふる人のめをさういぬ。こ
亦万幸筈月ありて日乃つぐさせだ。あられは世将を
日陰ものよりさすいね。さすいね。祖父秀白は
を徳ぬ。河とぞあ家よせをぬ人の乃ちの徳の孝近
そとわり。世の人たはよき人幸をうるまどとあひて
けておあし事よあさうへは事さつた。永をう中く
出家とさうい。教も法師をこれせの游民なん
ど。ふたの初よはさうまられた。さうを聖を
とさせて大儒よる人とあう人。はもこのあます。ねち

て悪と云ふ事有り又秀白の孫よふびんの巻と
いわれて他人よかり。二つは武士の家へ水た
と久と。およ上智と下愚のさう人の学をこれ
知すまうこれむらうと令云まよふ令せぬ

四之巻終

常流曾我若松五之巻

目録

① 笠巻に隣りつゞん軟らひの的

目瘡と云ふもの松

附

本男の詞候法をい

目切はらぬがなり

富士三里あることあり

二 世宗第一 飲力足踏ぬぐ水乃中並酒

附、 非色たよふて登よ世活と鏡飯よききん

附、 慈愍とたろ悪云誤入して子下法

三 子代よ八子代よ細心忠と推極生れ附は法足

附、 信乃福源越よ形る武光魂一筋乃徳
紋ハ是への刀並鏡附の合姓子孫ハ榮

才一

笠懸乃隣の云分我乃あつこの的
付リ日禱とよる松本男此経後か守兄

あつる家来を平生人並りて至君まさう此時ふ
慈ののんぐけと忍いも松も法本に替るはと
冬よ釣り餘乃本ハ葉為とたむとりそ本立き
やうと去よらうと貞長 勁松と熟せり板も其
友を室宗多る我又郎時宗成抱くらりし
らうて常盤テ若れ松箱成領して家下
住りて 柳は松と中ハ世首御先祖八懐を御義家
取ハ奥列武隈の翁子の目付二葉と指上るそれ
源家の歴く乃 毫本よて今ハ時を幾十加り此源録

毎妻丹項粟^{まいせんとくも}はけく子代^{こしろ}の勢と見せよける。右本^{こかく}は平小^{へいこ}の
 枝^{えだ}地^ちよ多^{おほ}れて葉^ははるる。皴^{せう}乃^な見^み付^つを近^{ちか}乃^な録^{ろく}り世^よよい多^{おほ}
 ちう^{ちう}見^みへぬる。隣^{りん}皴^{せう}はちぶれ六^{ろく}郎^{らう}を^をけ安^{やす}の居^い住^{ぢゆう}に^に結^{むす}るに
 け比^ひる我^{われ}が孫^{まご}黨^{どう}京^{きやう}の小^{せう}治^ぢ郎^{らう}のま^ま宗^{そう}が皴^{せう}れ裏^{うら}門^{もん}を切^き後^ごして
 お果^はるる。そ^そ子^こ細^こ細^こ字^じよ^よま^まげむ^むひと^と討^う人^{にん}を^をま^まる^るめ^めく^くと^と置^おけ
 られた。不^ふ幸^{さう}あ^あて^て安^{やす}念^{ねん}の生^{せい}害^{がい}よ^よ乃^なぶ^ぶ半^{はん}具^ぐよ^よ一^{いつ}通^{つう}よ^よ徳^{とく}り
 物^{もの}垂^たぬ。い^いり^りさ^さぬ^ぬ友^{とも}を^を半^{はん}用^{よう}ふ^ふ油^{あぶら}取^とかりしと^とい^いく^くとも
 是^{こゝ}本^{ほん}乃^な靈^{れい}強^{きやう}よ^よう^うつ^つく^くむ^むと^とい^いハ^ハ災^{さい}難^{なん}と^との^のぐ^ぐれ^れら^らる^ると^と見^み
 たり。壬^{にん}年^{ねん}付^つ禰^ねふ^ふ京^{きやう}の小^{せう}治^ぢ郎^{らう}自^じ滅^{めつ}れ^れう^うハ^ハま^まげ^げ宗^{そう}ふ^ふ
 かり^り半^{はん}と^とい^いハ^ハ叔^{しやく}鬼^き五^ごハ^ハ冥^{めい}因^{いん}と^と名^な滅^{めつ}れ^れう^うハ^ハま^まげ^げ宗^{そう}ふ^ふ
 仲^{ちゆう}居^ぐ皆^{みな}公^{こう}と^と執^{しやく}め^め折^{せつ}を^をう^うく^くひ^ひ隣^{りん}を^をあ^あれ^れハ^ハ友^{とも}を^をま^まる^ると^と見^み
 む^むつ^つん^ん乃^な乃^なの^のん^ん之^之國^{こく}三^{さん}郎^{らう}ハ^ハ比^ひお^お撲^つの^の場^{ばう}を^を友^{とも}を^を滅^{めつ}れ^れんと
 見^みられた。そ^そ日^{にち}ハ^ハ友^{とも}を^をま^まる^ると^と見^みせ^せひ^ひよ^よお^およ^よば^ばど^ど討^うつ^つら^らる^ると^と見^み
 一^{いつ}が^がど^どく^くハ^ハい^いつ^つと^と款^{くわん}紙^し付^つの^のま^まん^ん。肘^{てう}の^のカ^カハ^ハ根^{こん}根^{こん}の^の控^{こう}現^{げん}よ
 中^{ちゆう}ち^ちり^りして^{して}地^ぢを^をあ^あれ^れハ^ハ友^{とも}を^をま^まる^ると^と見^みせ^せひ^ひよ^よお^およ^よば^ばど^ど討^うつ^つら^らる^ると^と見^み
 何^{なに}百^{ひやく}人^{にん}ま^まる^ると^と見^みせ^せひ^ひよ^よお^およ^よば^ばど^ど討^うつ^つら^らる^ると^と見^み
 せん^{せん}と^とい^いひ^ひと^とん^んて^て事^{こと}り^り鬼^き王^{わう}に^にあ^あな^なと^とな^なれ^れハ^ハい^いや^や何^{なに}や^や
 武^ぶ勇^{ゆう}わ^われ^れハ^ハと^とい^いハ^ハ今^{いま}大^{だい}身^{しん}の^のま^まげ^げ宗^{そう}と^とい^いハ^ハ事^{こと}り^りま^まる^ると^と見^み
 て^てハ^ハ付^つひ^ひぐ^ぐと^とい^いハ^ハと^とら^らむ^むれ^れハ^ハ國^{こく}三^{さん}郎^{らう}ハ^ハ六^{ろく}時^じ宗^{そう}が^が行^{ぎやう}氣^きよ^よ知^ちる^る
 一^{いつ}交^{かう}を^を出^だせ^せし^し事^{こと}り^りは^はひ^ひる^るぐ^ぐと^とい^いハ^ハ生^{せい}れ^れ付^つ御^ごの^の意^い氣^きと^と出^だす^す
 武^ぶ士^し乃^な一^{いつ}念^{ねん}と^とい^いハ^ハ命^{めい}と^と的^{てき}よ^よう^うら^らる^るう^うハ^ハ友^{とも}を^をま^まる^ると^と見^み
 鬼^き神^{しん}よ^よも^もせ^せよ^よ。や^やら^ら仕^し換^かド^ドや^やべ^べさ^さや^や。あ^あ人^{にん}と^と合^あせ^せな^なる^ると

毎妻丹項粟^{まいせんとくも}はけく子代^{こしろ}の勢と見せよける。右本^{こかく}は平小^{へいこ}の
 枝^{えだ}地^ちよ多^{おほ}れて葉^ははるる。皴^{せう}乃^な見^み付^つを近^{ちか}乃^な録^{ろく}り世^よよい多^{おほ}
 ちう^{ちう}見^みへぬる。隣^{りん}皴^{せう}はちぶれ六^{ろく}郎^{らう}を^をけ安^{やす}の居^い住^{ぢゆう}に^に結^{むす}るに
 け比^ひる我^{われ}が孫^{まご}黨^{どう}京^{きやう}の小^{せう}治^ぢ郎^{らう}のま^ま宗^{そう}が皴^{せう}れ裏^{うら}門^{もん}を切^き後^ごして
 お果^はるる。そ^そ子^こ細^こ細^こ字^じよ^よま^まげむ^むひと^と討^う人^{にん}を^をま^まる^るめ^めく^くと^と置^おけ
 られた。不^ふ幸^{さう}あ^あて^て安^{やす}念^{ねん}の生^{せい}害^{がい}よ^よ乃^なぶ^ぶ半^{はん}具^ぐよ^よ一^{いつ}通^{つう}よ^よ徳^{とく}り
 物^{もの}垂^たぬ。い^いり^りさ^さぬ^ぬ友^{とも}を^を半^{はん}用^{よう}ふ^ふ油^{あぶら}取^とかりしと^とい^いく^くとも
 是^{こゝ}本^{ほん}乃^な靈^{れい}強^{きやう}よ^よう^うつ^つく^くむ^むと^とい^いハ^ハ災^{さい}難^{なん}と^との^のぐ^ぐれ^れら^らる^ると^と見^み
 たり。壬^{にん}年^{ねん}付^つ禰^ねふ^ふ京^{きやう}の小^{せう}治^ぢ郎^{らう}自^じ滅^{めつ}れ^れう^うハ^ハま^まげ^げ宗^{そう}ふ^ふ
 かり^り半^{はん}と^とい^いハ^ハ叔^{しやく}鬼^き五^ごハ^ハ冥^{めい}因^{いん}と^と名^な滅^{めつ}れ^れう^うハ^ハま^まげ^げ宗^{そう}ふ^ふ
 仲^{ちゆう}居^ぐ皆^{みな}公^{こう}と^と執^{しやく}め^め折^{せつ}を^をう^うく^くひ^ひ隣^{りん}を^をあ^あれ^れハ^ハ友^{とも}を^をま^まる^ると^と見^み
 む^むつ^つん^ん乃^な乃^なの^のん^ん之^之國^{こく}三^{さん}郎^{らう}ハ^ハ比^ひお^お撲^つの^の場^{ばう}を^を友^{とも}を^を滅^{めつ}れ^れんと
 見^みられた。そ^そ日^{にち}ハ^ハ友^{とも}を^をま^まる^ると^と見^みせ^せひ^ひよ^よお^およ^よば^ばど^ど討^うつ^つら^らる^ると^と見^み
 一^{いつ}が^がど^どく^くハ^ハい^いつ^つと^と款^{くわん}紙^し付^つの^のま^まん^ん。肘^{てう}の^のカ^カハ^ハ根^{こん}根^{こん}の^の控^{こう}現^{げん}よ
 中^{ちゆう}ち^ちり^りして^{して}地^ぢを^をあ^あれ^れハ^ハ友^{とも}を^をま^まる^ると^と見^みせ^せひ^ひよ^よお^およ^よば^ばど^ど討^うつ^つら^らる^ると^と見^み
 何^{なに}百^{ひやく}人^{にん}ま^まる^ると^と見^みせ^せひ^ひよ^よお^およ^よば^ばど^ど討^うつ^つら^らる^ると^と見^み
 せん^{せん}と^とい^いひ^ひと^とん^んて^て事^{こと}り^り鬼^き王^{わう}に^にあ^あな^なと^とな^なれ^れハ^ハい^いや^や何^{なに}や^や
 武^ぶ勇^{ゆう}わ^われ^れハ^ハと^とい^いハ^ハ今^{いま}大^{だい}身^{しん}の^のま^まげ^げ宗^{そう}と^とい^いハ^ハ事^{こと}り^りま^まる^ると^と見^み
 て^てハ^ハ付^つひ^ひぐ^ぐと^とい^いハ^ハと^とら^らむ^むれ^れハ^ハ國^{こく}三^{さん}郎^{らう}ハ^ハ六^{ろく}時^じ宗^{そう}が^が行^{ぎやう}氣^きよ^よ知^ちる^る
 一^{いつ}交^{かう}を^を出^だせ^せし^し事^{こと}り^りは^はひ^ひる^るぐ^ぐと^とい^いハ^ハ生^{せい}れ^れ付^つ御^ごの^の意^い氣^きと^と出^だす^す
 武^ぶ士^し乃^な一^{いつ}念^{ねん}と^とい^いハ^ハ命^{めい}と^と的^{てき}よ^よう^うら^らる^るう^うハ^ハ友^{とも}を^をま^まる^ると^と見^み
 鬼^き神^{しん}よ^よも^もせ^せよ^よ。や^やら^ら仕^し換^かド^ドや^やべ^べさ^さや^や。あ^あ人^{にん}と^と合^あせ^せな^なる^ると



とがんとあるゆへ何ふ是まとりれて事進ぶるが事
乞ふりの面々の思案は任まて鬼王侵何と云むなる
とげんるも方が纏氣でハ散去ハ討ま仕換て恥と後代
よ辨さん男よ何様者ハ討換て恥くりハ自分纏とぬ
款とささぐりて恥りさあふり。牛の海ハ益款と討ての
廣云といハ鬼王守中く大星ハ是討まきりぐさ事。
まてにハ主人ハ見才も才余手くるハ纏補し纏りハ
よつと首毛能なるまげあひぬ。あつとあ氣に卒忽
するあつと教訓まれた。圍さるぬんせと今日ハ昨日と切て
毛内ハ款煮升者たが首取てハ自分のハ目より人鬼王
守てわざ笑ふて日切ハ款ハ討まりのう。必そ方がいふ

大死とあるりのんせんと見るあつと鬼王うさ
ふら。突止よあひ者訓まるにば入ぬ。法者げハ色
紅と付れどおん死せんといハ自分事。祿ら款と人小
うそれ世よめんりあく生ういあく切後とるとお死とて
ハあき物者ハ物事のとく日切の内よ。まげ家と討てかせ
やえん。鬼王とあつとけ。麻が器にゆりたる。鬼王ハ御の
勢氣とあつとる。あつとわひハ。分判氣ちがむ。ひとあ
程ぬりのとつとふやさし。あつと。あつと。あつと。
圍三層。あつと。纏氣ハ。あつと。あつと。あつと。
日あく。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
三十日の日と切て款と討んと。あつと。あつと。あつと。

世より先内院をその一分とてむすびて鬼王をたが降
屋敷より居る事あれば鬼王にまげ宗と封せて我惟と封て
至君時宗取へ向人さわむせひよ及む鬼王に懸云せし
とく我後切てお果飯の女流はかへや吾念やおつれ一ふ
つしては病氣飲と封と本後まけあへとと人定約乃
命故た三十日の日切れ内あがらんさせりまらじ飲と宗
封うむいふと命故存じと録の伝林より敵宗
女敵時宗の靈魂一折折云けける事平にやそ日よら
權ちりて飲食ふまよりせくる園よりまらじななりぬ
是よりしては重無魂成るそ末の世よとて空傳へ飲と福ふ
若くは我見中と奪り神とあ一信ふとそ重無魂と約まらじ

うとむ園三神へ次第に氣力健まそ是踏定り時クニまると約
かたる心そ勇の玉極へあげ宗へ生得力量とたれて時宗と
抱とある程の男敵時武威とせよあじ日比時のもこまりしゆ
文乃よ清く賢勝て野ありのあへをを意儀く悔はまると
まこの隙敵合登れ心くとあへ疾弓乃益登源文の
曲るそ介時あね乳舞を初ら下丸乃程へ隣家おやそ
取成そん立しが後ハ空訓く例の神方あしと我後り
々々敵よりぬのち節とを資あしびけあげ宗を泥乃
行跡せりりて人の差別せり

才二

世と二飲力は踏さる水乃の申並酒

付り惟と心と思ふて盗し世信と焼飯あそ是見

のわり。冥心ややと拍子本ややと。どうしてうらぶかといふは、
 あつど。件くだんの男わたりと見ゆ。城いをさくまよる時、りくぶが方の
 殿みま太おは、見付てあやと吹付事けり。くび教まよつきて、
 城い新あらた海うみづまわまこのなれあへ。え。くせ者もの懐ふ中ちゆうの焼飯やきいりと
 糸いと巾きんがなまわして、くませまねいさす。ぐ畜生ちくじやうをせや。飯いりよ
 喰付くひつどがめてあへ。刻まとめをさべかた。女のいふも皆あまのふ
 たり。くせりの又どがめ。あんな事ことと気毒きどくもや思ひまん。どう
 してて。刀かたなの柄えらも、女の眉まゆも。あううふあへ。さけま。さ
 一ひとのよそなへあへ。死まよける。そ。精せいとう。くせり。ぬれや。ころ
 ち。城いの御板ごいたより。かどぬいて。そり。く。切きぬ。是こを。け
 て。む。冥心めいしんのえ。お。切付きつれ。く。せ。め。の。く。り。と。拍子ひら本ほん

冥心めいしんの拍子ひら本ほんを。あ。の。重おもき。う。の。城い。より。生なま。う。り。と。る。松まつの。沈しずむ。
 切付きつて。り。つ。と。の。り。て。あ。う。り。り。く。せ。り。め。人ひと。と。み。と。逢あへ。と。
 と。る。と。冥心めいしんや。ぬ。と。う。り。ろ。か。襟えり花はな。ぬ。て。衣え。ろ。き。が。つ。れ。か。う。
 く。せ。者もの。帯おび。に。糸いと付つく。ん。ご。り。ろ。と。冥心めいしんと。え。へ。の。男おとこ。孫まご。ら。合あへ。と。合あ。
 つ。あ。よ。く。せ。と。め。と。ト。に。し。う。り。ろ。子こ。よ。血ち。さ。せ。ト。襟えり。ま。あ。上う。へ。
 く。せ。者もの。ま。つ。ひ。く。み。先まへ。り。ろ。と。へ。え。来き。の。盃さか。人ひと。あ。う。と。び。お。や。れ。の。
 茶ちや。と。ぬ。り。か。り。り。穿ち。人ひと。れ。男おとこ。の。糧か。よ。つ。り。と。ふ。と。出で。来き。ん。と。は。御板ごいた。
 切き。つ。る。と。ろ。事こと。年とし。鼻はな。紙し。を。ぐ。れ。て。ぬ。れ。た。男おとこ。よ。大おほ。切き。か。る。と。の。わ。る。
 若わか。い。命いのち。汁じゆ。ハ。か。と。と。け。り。ろ。と。へ。と。と。ま。び。ま。る。び。教ま。と。す。て。
 冥心めいしん。何なに。と。や。う。え。ま。お。づ。先まへ。つ。と。と。え。ん。と。死し。お。れ。差さ。お。拍子ひら。灯とう。
 して。見み。れ。ハ。團だん。三さん。郎らう。と。ち。ち。と。拍子ひら。灯とう。と。吹ふ。き。り。と。と。あ。う。ぬ。拍子ひら。

いりぬが為をゆるされぬ歌。一和よなることごと
りこめし家系と誓しと。事成るままつて是こよひも
すてお仕換しるるまもあまうし。玉極のち理といひ
やとれ。圓らうと比私纏魚ゆんをかりあはるる
まりやうと。びよお指書と背やまうと。海依りおらう。
むふより。徳大名の推灯おわく見ゆる。是いふ。泥といふ。
鬼王われ。今日安達右る。允るへ。各々集るけるが。
只今座出。その推灯も。その内よる。ちうふ。ある
推灯の紋。丸の内よ。父行。われも。歌あげ。宗あるん。いざ。待
まうけ。討らん。と。又。圓らう。を。あり。なれ。鬼王。と。あ。さ。を
め。だ。れ。づ。いて。小。笠。束。依。と。木。濃。座。推。束。取。の。以。紋。を
え。も。る。主人。り。ぬ。る。の。推。灯。も。来。れ。へ。申。く。は。場。よ。し。を
討。と。ど。今。去。り。く。約。よ。と。う。し。と。圓。ら。う。と。冥。門。の。長。座。の
ゆ。も。そ。去。の。を。せ。ける。

第三

千代は子代は細石岩と推極生付の泥足

今日の御食意の今々。安達右の紋。子秋樂と。祖ひ。一。和。よ。立
あ。い。路。の。あ。ま。う。し。座。あ。つ。て。の。方。ま。い。と。ぬ。り。び。ん。付。の
擲。へ。秩。父。六。郎。重。安。其。井。方。を。あ。げ。宗。あ。る。針。を。ゆ。り。ける。
是。を。あ。ま。の。座。あ。つ。て。今日。へ。ま。に。ゆ。り。く。は。を。と。及。孫。重
の。養。あ。い。ま。う。し。と。そ。よ。立。ま。う。る。あ。ま。友。を。松。の。木。れ。枝。乃
あ。ま。う。し。と。見。付。真。の。紋。あ。ま。う。し。と。ひ。よ。わ。ら。り。小。ぬ。り。あ。り

たぐいび枝と為る程乃風減るふあし。或さよと。折は枝
見事ハ又抱き切らるる。主女を立寄て。或来の遠へ何
時は兼りけるぞと。百物されて為れ。越佐の仲るたや上
ふ。私を疾半うちめて兼り。が。時分を。或程は松れ枝ハ
り。このごとく。さぐりて。是より。と。中。あて。只今ハ何時ぞと
為るに。り。を。や。ハ。何時分と。中。極へ疾半。さて。の。溢。若。何。真。の。
う。入。ま。し。さ。ぐ。り。枝。減。あ。ぐ。さ。に。四。一。抱。あ。ん。極。有。さ。ぬ。
り。ぞ。ハ。抱。き。わ。ぶ。中。と。な。せ。て。び。松。年。く。ま。し。び。り。
沉。枝。が。埃。より。生。さ。ぐ。り。て。往。來。の。元。仲。る。上。の。天。窓。へ
さ。り。り。て。氣。毒。又。毎。天。の。何。分。ハ。か。つ。さ。に。ひ。つ。か。り。り。て。
鳥。羽。の。若。難。最。と。あ。り。さ。し。び。最。等。と。さ。ぐ。り。松。の

枝と。あ。く。う。を。さ。ら。す。や。う。に。中。へ。さ。と。な。せ。て。幸。に。あ。る。
か。上。へ。と。わ。ま。り。松。の。枝。と。び。り。り。往。來。の。さ。ぬ。ま。げ。ま。は。ぬ。也。
枝。減。す。り。や。し。り。と。が。折。あ。る。れ。ば。ね。海。事。と。い。ひ。ける。と
兼。を。折。介。氣。よ。わ。て。ぞ。ハ。来。よ。を。難。わ。る。奴。が。志。と。あ。る。を。と
却。て。務。負。む。事。ハ。さ。し。り。さ。ず。秘。藏。の。松。れ。枝。と。切。て。後。と
る。は。真。者。さ。り。た。ぬ。な。て。は。松。の。枝。と。切。れ。ば。来。が。子。減。お
し。も。同。あ。が。上。より。難。れ。雲。の。本。と。い。ひ。さ。し。切。合。
は。深。い。さ。い。で。ハ。折。あ。る。と。と。切。あ。る。は。主。女。へ。あ。り。さ。る。程。
主。女。と。思。案。乃。わ。り。中。る。た。柏。子。木。が。是。よ。り。と。そ。見。付
け。ぬ。兼。を。さ。れ。て。是。ハ。身。が。屋。敷。の。柏。子。木。り。と。或。来。を。一。吟。味
と。れ。ハ。か。屋。敷。の。柏。子。木。に。わ。る。と。い。ふ。兼。を。中。絶。へ。御。さ。り

あつてござる。若き皮何おのれ。切あしけり。とや。白木のうへ
重安取そ共と男が方。つういさるべし。重安はそれ何元後
ごう。せしお清れあさる。初めり。念ふも及や。さね。後。縁バ
来り。命にり。て清れ。中。重安。皮。それ。い。方。も。同。あ。と。と。て。よ
い。ろ。め。あ。つ。時。冥。内。主人。志。げ。あ。よ。じ。う。い。そ。ま。く。私。と。若。を。れ。へ
つ。う。い。さ。る。べ。し。恐。お。ろ。わ。く。ご。は。り。て。若。を。れ。へ。集。り。と。い。ふ。ん
お。俺。云。仕。毎。一。か。へ。と。云。重。安。冥。内。が。つ。う。眼。と。見。て。い。う。さ。る
ゆ。い。若。を。れ。へ。俺。云。と。仕。毎。と。い。ふ。冥。内。と。い。う。け。り。あり。梅。は
一。つ。い。は。そ。方。が。給。金。よ。う。さ。る。ぞ。と。あ。げ。出。せ。ば。冥。内。世。よ。あ。ら。う。さ
な。ま。り。ぬ。あ。り。拙。者。め。が。ぬ。む。さ。ま。あ。ら。う。さ。び。男。を。か
先。の。わ。ら。お。よ。そ。い。清。刀。派。梅。鏡。よ。及。や。さ。す。と。云。へ。そ。方
ど。死。の。傍。れ。地。い。う。あ。り。て。も。ん。え。あ。一。清。ん。女。ん。は。方。へ。梅。を
冥。内。は。情。の。い。主人。さ。る。あ。れ。た。ば。場。と。し。拙。者。め。一。つ。い。は
い。を。冥。内。を。う。る。それ。う。り。清。ん。も。さ。る。べ。し。と。一。つ。い。は。梅。け。り
重。安。つ。く。と。見。て。お。ど。ろ。死。お。つ。それ。ぬ。る。ひ。わ。ち。そ。れ。ま。そ。の
放。程。若。を。れ。へ。よ。び。事。と。仕。う。ま。す。若。を。れ。を。松。の。枝。と。切
や。う。る。若。を。れ。冥。内。と。お。梅。中。の。清。れ。あ。ら。う。べ。し。男。た。い。屋。を
へ。入。り。こ。る。若。冥。内。若。を。れ。へ。お。俺。云。中。七。後。介。へ。あ。ら。う。と。い。ふ。と
若。の。屋。を。へ。来。れ。両。重。安。と。い。ふ。と。何。よ。ん。と。あ。ら。う。と。い。ふ。重。安。の

あつて

時宗が海へ出てうらを抱とち。大世の出合と人よりの
志々のぞ。時宗の後の女とあひ。女の武士の手にけざる
法見ゆきて奥へ海りけるよ。あんなを名のりけき。
ごまのしるると手ぐりに。武勇ぞその何事ぞ。主人時宗
禮め乃恥のそ方ゆ。さこそ無念に言ん。そ方と討主人の
志よあむらこそ。名を安らしく。お手よ。敵首めて。まんと
手やりを付うると。鬼まけあがりて。圍さる。海。繫物
の海り先を方一人としてはれ。柔の愛とあせぐと。名を
家来と切まくり。門也へ。區。戸。む。の。は。は。力。減。る。ま。と
一人も出さむ。圍さる。名を切むまび。あひとて。命。減
か。ま。と。あ。ん。ご。ま。く。前。ある。海。へ。名。を。と。切。こ。ま。あ。り。を

ついでとんであり。泥まづれよ。あつて。あ。人。切。合。つ。る。ま。を。と
切。さ。せ。ま。を。の。敵。年。来。の。恨。ま。い。あ。れ。と。首。打。か。り。海。の
中。より。かけ。わ。が。り。ま。と。と。て。へ。う。ま。つ。や。と。西。方。八。方。と。海
武。運。よ。う。あ。ひ。ま。ご。ろ。と。恨。び。ま。る。も。む。之。鬼。ま。も。圍。さ。る。に
あ。付。で。う。ま。り。く。な。る。と。げ。と。嫌。い。も。め。と。親。と。親。と
ま。り。合。恨。び。後。り。ま。り。あ。い。ひ。う。い。う。う。う。あ。つ。て。ま。ま。れ
ま。を。よ。な。ま。せん。ま。を。う。ま。げ。や。と。名。の。あ。か。り。う。と
の。主。人。討。ま。あ。か。情。あ。る。一。う。一。海。り。ま。る。ま。と。れ。に。海
お。れ。と。ひ。又。我。の。男。の。う。と。あ。く。せ。や。名。ま。と。て。圍。さ。る
ゆ。び。の。切。て。そ。血。ま。そ。妻。細。と。あ。あ。う。め。我。く。お。果。る。後
大。事。の。ま。を。乃。敵。の。首。あ。げ。ま。る。へ。海。り。ま。んと。名。を。首。の

